
～ 天使 ～

御子柴 隼人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～天使～

【Nコード】

N6791A

【作者名】

御子柴 隼人

【あらすじ】

ある日現れたアイツは…天使？だった…天使との運命の出会いを書いた小説です。

（前書き）

初めての小説投稿です。感想とか貰えたらうれしいです。

オレは今まで普通に生活する高校生だった。
アイツがあらわれるまでは。

ミカエル。

そう。天使ミカエル。
アイツが今オレの前にいる。
外見は人間と変わらない。本人に天使と言われなければ気づかない。
でも、あっちから天使だと言われても普通は信じられない。
もちろんオレだって最初は信じちゃいなかった。
だけど、ある事がきっかけで気づいた。

なぜか目の前の彼は霞んでいる。
それだけじゃない。
彼は、オレにしか見えないらしいのだ。
…そして触る事ができない。

オレは自分がおかしくなったのかと思い精密検査までうけた。
しかし結果は異常なし。

オレは最大の疑問をまだ本人に聞いていなかった。

「天使って…。羽あるのか？」

そう聞くと彼は質問で返して来た。

「君は…？なんでボクが見えるの？ボクが見えるって事は君も天使なの？」

「はいっ！？？」

「だから、君天使なの？」

彼は目を輝かせながら聞いてくる。

オレは耳を疑った。

オレが天使だなんてありえない。羽だってないし。

しかし…そもそも天使に羽なんてあるのか？

さっき聞けなかった質問をもう一度ぶつける。違う形で。

「羽ないし、天使じゃないと思うよ。」
そう言ってみた。

「あいまいだなあ…自分が天使かどうか分からないの？背中見せて。」

そう言われ背中を彼にむける。

「ああ…。君、羽が無くなってる…。しかもかなり小さい頃に。これ切れたあとかな？」

「それは多分、交通事故にあった時の傷だよ。」

「でもこのキズは…」

交通事故。

しかし、この話しは自分の記憶には無い。

オレが親に傷の事を聞くといつも

あんたは、小さい頃に事故にあって死にかけたんだからね。そのときの傷だよ。

と、言われてきた。

そんな事を考えていると背中に激痛が走った。

今までも何度か痛みがあった事があったが、今回は比べ物にならない。

「うっ…。」

呼吸ができない…。

そして、そのままオレは気を失った。

目が覚めるといつもの天井が目に入った。

「ふう…。今までののは夢だったのかな…。」
少しほっとした。

次の瞬間。

背中に違和感があった。

「なんか気持ち悪い…。もしかして…羽!？」
手を回してみたが、それらしい感触はなかった。
少しがっかりした。

「そついえばアイツは…? あつ夢か…。霞んでたし…。」

そう思った時。

部屋のドアが開いた。

「えっ!？」

とにかくオレは驚いた。

アイツが来たのだ。

そして今まで霞んでいたアイツがハッキリ見えるのだ。

「なんで夢のはずのお前がハッキリ見えるんだよ!?! いや! ゆめじ
やなかったのか?？」

「君が変わったからだよ。」

微笑んでアイツは言う。

「いや… オレは何も変わって…。」

そこで気づいた。背中の違和感の事を。

「なあ…。背中に違和感あるんだけど…」

そういうと、アイツはにやけて言った。

「羽が再生してるんだよ。」

「何！？さっき触れなかったけど？」

「自分の羽は、自分じゃ触れないんだ。」

「…なんで？」

率直な疑問をぶつける。

「羽がなきゃ普通の人間になれるんだもん。さっきまで君は人間だったでしょ？」

「だったでしょって…。今、天使って実感わかないけど…」

「じゃあ学校に行ってみれば？どうゆうことが解るよ。」

「どうゆう意味？」

「だから行けば解るって！」

「わかった…。行ってみる。」

彼に促されて、自宅をあとにした。

「ただいま…。」

「意味わかった？」

「うん…。誰にも見えてないみたいだし、声かけても返事してくれないし…。」

「やっぱりね」

「お前もこんな感じなのか？」

「まあね。」

「まあねじゃねえよ…。めっちゃめっちゃ寂しいじゃん!-!」

「だけど、君と仲良くなれたからさ。」

「ああ…。」

「人間に戻りたい？」

「戻りたいけど…。もどれないんだろ？羽触れないし。」
沈黙が続く。

沈黙を破ったのは彼の方だった。

「戻るよ。言ったでしょ。聞いてなかったの？ “自分”じゃ触れないって。」

そういうと彼は、おもむろにオレの羽に手を掛けた。

「お前…。そんな事したら…」

オレを静止するように、彼が言う。

「いいの！！寂しいのには慣れてるからさ。」

「わかった…。じゃあこれだけは約束して！」

「なに？」

「もしオレがまた羽が再生することがあったら、絶対会いに来て！」

「わかったよ。」

最後に笑いかけて来たが、ふと寂しそうな顔を見せた。

「羽には天使だった頃の記憶が詰まってるんだ…。バイバイ…。」
その後、辺りを光りが包み込んだ。

気付けばベットの上。

「よく寝たあゝ。」

「うわっ!!」

目の前に涙目の人が立っていた。

「あれっ…？確かに羽は取り除いたはず…。なのに覚えてる…？」

「確かに無くなったね。」

オレは、そう言い返した。

「じゃあ…何で見えるんだよ!？」

「だってオレ最初は羽なかっただろ？」

「??」

「初めて会った時だよ。」

「言いたい事がよくわかんないよ…」

「羽がなくても見えてたでしょ？」

「そっか!」

今にも泣きそうだった顔が笑顔になる。

「よく分かんないけど記憶だっただけ残ってるし」

「えっ??じゃあ…」

「もう悲しい事言つなよ…バイバイとか…。」

「ごめん…」

「まあいいや。これからずっと一緒だよな？」

「もちろん！」

こうしてオレには天使という友達ができた。
そしてアイツは今も俺の隣にずっといる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6791a/>

～ 天使 ～

2011年1月7日15時54分発行